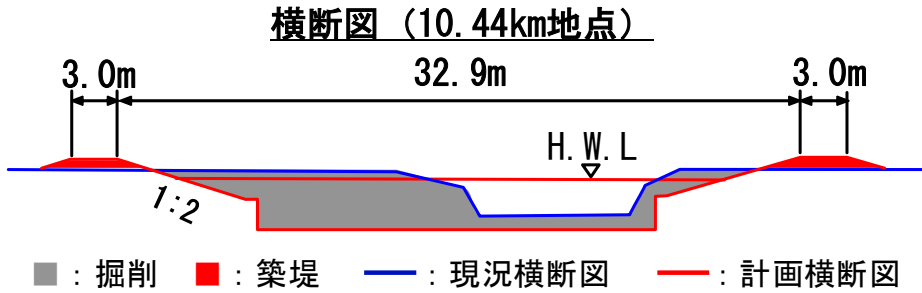


## 事後評価概要資料

番号	2001	担当課名 河川砂防課																					
事業名	広域河川改修事業	事業主体 埼玉県																					
路線・河川・地区名	一級河川鴨川	事業箇所名 さいたま市・上尾市																					
事業完了年	H21年	事業完了後の経過年数 1年																					
事業概要	目的	河道の拡幅や調節池の設置により、流域の治水安全度の向上を図る。																					
	必要性	一級河川鴨川はさいたま市と上尾市を流れる河川であり、流域では市街化が急速に進んだことから浸水被害が頻発しており、治水安全度の向上が必要となっていた。																					
	効果	河川改修により、計画規模とほぼ同規模の洪水において、浸水被害がほぼ解消された。																					
	事業内容	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>総事業費</td> <td>50,100百万円</td> <td>事業期間</td> <td>S44~H21 (41年間)</td> </tr> </table> 改修延長：17.7km 主な内容：掘削工、築堤工、護岸工、調節池工、道路橋架換工、樋管工 計画諸元：計画高水流量270m <sup>3</sup> /s(確率規模1/3 1時間最大雨量50.4mm総雨量158.4mm/24hr)	総事業費	50,100百万円	事業期間	S44~H21 (41年間)																	
総事業費	50,100百万円	事業期間	S44~H21 (41年間)																				
事業概要図	<h3>横断面図 (10.44km地点)</h3>  <p style="text-align: center;"> <span style="color: grey;">■</span> : 掘削    <span style="color: red;">■</span> : 築堤    <span style="color: blue;">—</span> : 現況横断面図    <span style="color: red;">—</span> : 計画横断面図         </p>																						
事後評価項目	事業の効果の発現状況	○改修前後の同程度の総雨量による被害の比較 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>年次</th> <th>降雨名</th> <th>総雨量 (mm)</th> <th>時間最大雨量 (mm/hr)</th> <th>浸水面積 (ha)</th> <th>浸水戸数 (戸)</th> <th>改修率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>S61.8</td> <td>台風10号</td> <td>227.5 (26hr) 226.5 (24hr)</td> <td>44.0</td> <td>470</td> <td>3,488</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>H14.7</td> <td>台風6号</td> <td>235.0 (38hr) 177.0 (24hr)</td> <td>57.0</td> <td>0.1</td> <td>11</td> <td>97</td> </tr> </tbody> </table>	年次	降雨名	総雨量 (mm)	時間最大雨量 (mm/hr)	浸水面積 (ha)	浸水戸数 (戸)	改修率 (%)	S61.8	台風10号	227.5 (26hr) 226.5 (24hr)	44.0	470	3,488	10	H14.7	台風6号	235.0 (38hr) 177.0 (24hr)	57.0	0.1	11	97
	年次	降雨名	総雨量 (mm)	時間最大雨量 (mm/hr)	浸水面積 (ha)	浸水戸数 (戸)	改修率 (%)																
	S61.8	台風10号	227.5 (26hr) 226.5 (24hr)	44.0	470	3,488	10																
H14.7	台風6号	235.0 (38hr) 177.0 (24hr)	57.0	0.1	11	97																	
効果分析の要因の変化	H15再評価との比較 ・全体事業費 50,044百万円→50,100百万円 (56百万増) ・事業期間 S44~H18→S44~H21 (3年増) ・B/C 1.54→1.52 (0.02減)																						
事業実施による副次的効果	○調節池で自然環境の保全、河道の一部で親水性の向上に努めるなど、拠点を立てて地域住民に利用される新たな憩いの場の創出を行った。																						
評価結果及び考察	(評価結果) ○河川改修により、計画規模とほぼ同規模の洪水において、浸水被害がほぼ解消された。 (考察) ○今後の河川事業では、河川全体での自然の営みを視野に入れ、地域の暮らしや歴史・文化との調和にも配慮し、生態系や景観を保全・創出する川づくりを進める必要がある。																						
特記事項																							